

# 検討の観点 & 教科書内容の特色

採択理由書などにご活用ください!

	家基 312	家総 308
編集方針	日々の生活のなかから課題を見つけ、その解決のために必要な知識と教養を身につけることができるように留意して編集しました。本書を「 <b>人生の解説書</b> 」と位置付けました。身の回りの生活を再認識し、人生を見通し、自分なりの価値観を築くことができるようになることを目標に、資料やコラムなどを選定しました。	
組織・配列について 全体の構成	<p>①本書のテーマとして「<b>健康・安全</b>」「<b>日本の文化</b>」「<b>持続可能性</b>」「<b>共生</b>」「<b>自立</b>」という5つを設定しました。各章の扉では、これら5つの視点に立った高校生目線の疑問を掲載し、疑問を学習の気付きとして解決策を各領域のなかで探ることができる仕組みとなっています。 【家基 312】 p.5/p.109/p.153 【家総 308】 p.5/p.27/p.167 など</p> <p>②各節のはじめに、その節で学ぶ<b>キーワード</b>を掲載し、学習の導入やまとめとして活用できるようにしています。</p> <p>③学習の進行に応じて活用できる<b>資料やコラム (「Column」)</b>を豊富に掲載しています。話題となっている新しい情報なども満載で、学習の導入や内容を深める材料として活用できます。 【家基 312】 p.68/p.119/p.175 【家総 308】 p.103/p.111/p.179 など</p> <p>④口絵で、家庭科学習を見通すための<b>漫画</b>と<b>概観図</b>を用いました。概観図では、現在生活している空間を見つめる視点と、今まで生きてきて、これから成長していく時間の観点の両方が家庭科の学習に必要であることを分かりやすく示しています。</p>	
内容の工夫点について 内容	<p>①教科書全体で、<b>ライフサイクルアセスメント (LCA)</b>の考え方を徹底しました。身の回りにあるものの背景について学ぶだけでなく、持続可能性について考えるきっかけとしても使える資料を目指しています。 【家基 312】 口絵 5～7/p.64/p.130 【家総 308】 口絵 5～7/p.164/p.200 など</p> <p>②暗記型の学習にならないよう、自ら考えたり、実験したりできる内容（「<b>TRY!</b>」「<b>考えてみよう!</b>」）を多く掲載しています。<b>アクティブ・ラーニング</b>にも対応します。 【家基 312】 p.11/p.112 (TRY!) /p.155 (考えてみよう!) p.178 (TRY!) 【家総 308】 p.8/p.79/p.209 (考えてみよう!) p.234 (TRY!)</p> <p>③高校生が家庭科の学習を通して、<b>自分なりの職業観・結婚観・家族観</b>などを持つことができるように、興味・関心を引く多くの資料を掲載し、サポートしています。 【家基 312】 p.10・p.17 (考えてみよう!) /p.156 (コラム) 【家総 308】 p.21 (考えてみよう!) /p.29 (TRY!) /p.82 (コラム) など</p> <p>④<b>ライフステージの観点</b>を大切にし、調理実習で「同じ材料から乳児食・高齢者食をつくる」内容を入れるなど、保育や高齢者領域を身近に感じることができるよう工夫しています。 【家基 312】 口絵 3～4/p.106～107 【家総 308】 口絵 3～4/p.156～157 など</p>	
	⑥科学的な資料を数多く扱い、物事の原理原則とその裏にある <b>科学性</b> に気付かせるつくりになっています。 【例】 p.51・p.70 (コラム) /p.81 (伝統) など	⑤保育園実習や高齢者介助など、他の世代とのふれ合い学習について具体的な方法や注意点を数多く掲載しています。 【例】 p.52～53/p.67 など
表現や表記について 表現方法	<p>①誰にでも使いやすい教科書を目指し、<b>カラーユニバーサルデザイン</b>に配慮しています。図表などでも、弱視の方に見えづらくなならないよう配慮し、隣り合う色同士の並びを工夫しています。</p> <p>②本文のフォントには、誰にでも見やすい<b>ゴシック体のユニバーサルデザインフォント</b>を用い、より読みやすい教科書の工夫をしています。</p> <p>③視覚的に理解しやすいよう、<b>鮮明で見やすいイラストや写真、図表</b>を効果的に使用しています。</p> <p>④さまざまな社会問題についてもしっかりと扱いましたが、<b>公平・中立な立場</b>での記述に留意しています。また、当事者である生徒のことも考慮し、記述には十分配慮しています。 【家基 312】 p.19 (資料) /p.39 (考えてみよう!・コラム) /p.63 (コラム) 【家総 308】 p.45 (考えてみよう!) /p.61/p.122 (コラム)</p>	
学習指導要領との関連及びその他言語活動・伝統文化・体験活動・道徳教育・食育・環境教育・消費者教育など	①日本の雇用環境や、男女共同参画に向けた世界と日本の取り組み、ワーク・ライフ・バランスなどについて基礎をしっかりと扱い、 <b>キャリア教育の充実</b> を図ります。 【例】 p.11 (資料) /p.16/p.169 (コラム) など	①各章の最後には、学習内容に関わる職業を紹介する企画ページをつくり、 <b>キャリア教育の充実</b> を図りました。また、日本の雇用環境や、男女共同参画に向けた世界と日本の取り組み、ワーク・ライフ・バランスなどについて基礎をしっかりと扱い、青年期に考えるべき <b>職業観</b> を養う工夫をしています。 【例】 p.17/p.76/p.98 など
	<p>②体験活動を通じて学習をより深いものとするため、<b>短時間・安価で簡単にできる実験・実習</b>をできるだけ多く掲載しています。 【家基 312】 p.33/p.72/p.77/p.124 【家総 308】 p.39/p.120/p.121/p.169 など</p> <p>③2020年に控える東京オリンピックなど、日本の文化を問われる機会が増えていると考え、日本の文化に興味を持ってもらえるように<b>日本の伝統</b>を知ることのできる資料を豊富に掲載しています。日本の伝統を学び、世界に発信していける力を養います。 【家基 312】 p.59/p.60/p.108/p.116/p.145 【家総 308】 p.109/p.161 (コラム) /p.202～203/p.227 など</p> <p>④他国の状況や日本との比較などの資料を掲載し、<b>国際的な視点</b>を養います。 【家基 312】 p.18 (コラム) /p.44/p.53 (資料) 【家総 308】 p.22 (コラム) /p.51/p.75/p.247 など</p> <p>⑤各章の扉の疑問と、章末の課題研究は<b>ディベート学習</b>に活用できるよう工夫されており、<b>言語活動の充実</b>を図ります。 【家基 312】 p.57/p.132/p.176 【家総 308】 p.77/p.105 など</p> <p>⑥情報の扱い方、意思決定の方法、クレジットカードの使い方などをしっかりと扱い、情報化社会で<b>自立した消費者</b>となるために必要な知識を身に付けさせます。 【家基 312】 p.8 (コラム) /p.156/p.159 (資料) など 【家総 308】 p.91/p.98 など</p> <p>⑦教科書全体で環境に配慮する視点を取り入れ、<b>持続可能な社会の重要性</b>に触れているため、効果的な環境教育に活用できます。 【家基 312】 p.65/p.152/p.175 (コラム) 【家総 308】 p.103 (コラム) /p.165/p.231 など</p> <p>⑧安全・安心な生活のために、災害について多くの資料を掲載しています。 【家基 312】 p.138/p.182 (コラム) /p.188～189 【家総 308】 p.217/p.223/239 (コラム) など</p>	

学期	月	章・単元	項目	時間	学習のねらい・目標				
1 学期	4	第 1 章 青年期と家族	①これからの人生に向かって	1. 人の一生はどうなっている？ 2. 一生のなかの青年期 3. 青年期の自立と共生 4. 職業の選択	4	・生涯発達の見点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解する。 ・青年期の自立について考え、男女の社会的役割について理解する。また、自分の問題として意識する。 ・将来を見通した職業観を身につける。 ・家族とは何か、様々な観点から考えて自分なりの価値観を築く。			
			②家族って何だろう？	1. 家族の役割 2. 家庭の機能 3. 社会のなかの家族 4. 男女とともに家庭を築く 5. 法律のなかの家族					
	5	第 2 章 保育	①子どもの成長を見つめる	1. 子どもの成長 2. 発育と発達 3. コミュニケーションの発達	4	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義をとらえ、子どもにとってよい環境について考え、自分なりの意見をもつ。 ・親の役割や子どもを育てることの意義を学ぶ。 ・生命の尊さを認識し、愛着の形成や社会的規範を身につけさせる上で、保育における親の役割を理解する。 ・子育てを支える社会のしくみについて知り、これから子どもを育てる世代になることを実感する。			
			②子どもの世話をしてみよう	1. 親の役割 2. 生活習慣とは 3. 子どもの健康を守る 4. 子どもの安全を守る 5. 子どもと遊び			3		
			③子どもを取り巻く環境	1. 子育ての現状と課題点 2. 子育てを支えるしくみ 3. 子どもの権利と福祉					
	6	第 3 章 高齢期	①高齢期ってどういう時期？	1. 高齢期の心身の特徴 2. 高齢者の健康 3. 高齢期の生活	2	・高齢者の生活に関心をもち、未来の自分の生活としてとらえることができるようになる。 ・我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題について理解する。また、高齢期の生活を支える制度について知る。 ・高齢者の介護について具体的な方法を理解する。			
			②高齢化する日本を生きる	1. 人口の高齢化はなぜおこるのか 2. 超高齢社会の課題			2		
			③高齢者を支える	1. 介護保険制度とは？ 2. 公的年金制度とは？					
	7		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		2	・家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を解決する。			
	2 学期	9	第 4 章 食生活	①食生活を見つめよう	1. 食事の持つ機能 2. 食文化の継承 3. 現代の食生活の課題 4. 食料自給率の低下 5. 環境について考えよう	3	・日常用いられる食品の栄養素的特質、調理上の性質について科学的視点から理解する。 ・食生活の多様化や環境の変化を知り、食生活と環境の関わりについて科学的に考える能力を身につける。 ・行事食・郷土食・伝統的な加工食品などの食生活の文化とその背景について知る。 ・現代の食生活における食の安全に関する基礎的な知識を理解する。 ・世代ごとの必要な栄養素を考え、献立を立てることができる。 ・調理の基本的な技術を身につけ、健康・安全を考えた調理ができるようになる。 ・環境を考えた食生活を送ることができる。		
				②私たちが食べているもの	1. 栄養素とは 2. 栄養素の働き 3. 食品を知ろう			5	
				③安全・安心な食品を選ぼう	1. 食品の選択 2. 食品の保存 3. 食品の安全を守る				2
④献立と調理				1. 献立を立てよう 2. 何をどれだけ食べる？ 3. 調理をしてみよう	1				
10		調理実習				6			
			第 5 章 衣生活	①なぜ服を着るの？	1. 保健衛生上の機能 2. 社会生活上の機能 3. 人の一生と衣服		1	・自身の衣生活の分析を通して、衣服や日常の衣生活に関心をもち、身につけることができるようになる。 ・状況に合わせた衣服選択の大切さを理解し、社会生活に生かすことができる。 ・資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた被服計画をたてることのできる。 ・基本的な衣服製作の技術を身につける。	
				②私たちが着ているもの	1. 衣服の材料 2. 衣服の構成				3
				③衣服の管理を学ぼう	1. 衣服の購入と選択 2. 衣服の手入れ 3. 衣服の保管				
④これからの衣生活		1. 衣服と環境		1					
11		第 6 章 住生活	①私たちが暮らす場所		1. 住まいの役割 2. 空間はどう構成されるの？ 3. 安全に暮らす 4. 犯罪を予防する 5. 快適に暮らす 6. 住居の維持と管理 7. 気候風土と住まい	2	・住宅の機能、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解する。 ・家族の状況に合わせて住まいを変えていく必要性について理解する。 ・安全で快適な住生活を送るための知識を身につけ、環境にも配慮した住生活を送るための知識を身につける。 ・住居の平面図を読みとることができるようになる。 ・私たちの暮らしが地域とつながっていることを知り、まちづくりに参加する重要性を理解する。		
			②安心・安全な暮らし		2				
			③つながって暮らす	1. さまざまつながり				2	
	④これからの住まいを考える		1. 住まいの今 2. 住居における持続可能性	1					
3 学期	1	第 7 章 消費生活・環境	①何をどうやって買う？		1. 私たちの消費生活 2. 生活情報の活用	2	・消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、自身の消費行動として具体的に考えられるようになる。 ・家計管理について具体的な事例を通して、シミュレーションすることができるようになる。 ・生活情報を活用するために必要な情報リテラシーを身につける。		
			②かしこい消費者になろう	1. 契約で成り立つ消費生活 2. 消費者問題の現状と課題 3. 消費者信用のしくみ 4. 消費者の権利と責任	3				
			③暮らしと経済のかかわり	1. 経済からみた暮らし 2. 家計のしくみ 3. 家計を計画的に管理しよう				2	
			④環境について考えよう	1. 私たちの生活と環境 2. 低炭素社会をめざす 3. 持続可能な社会のために 4. 私たちの行動が社会を変える	2				
	2	第 8 章 生活設計	①目標をもって生きよう！	1. 生活設計とは？ 2. 生活資源をいかそう 3. 人とかかわって生きる		4	・税金の仕組みを知り、納税の大切さについて理解する。地域社会の一員として、支え合う大切さを知る。生涯を見通した生活設計の重要性について理解する。自身の生活を見つめ直し、地球環境保全に貢献できるライフスタイルを確立するための基礎をつくる。 ・障がいを見通した生活設計の重要性について理解する。		
			②人とかかわって生きる	1. 共生社会とは 2. 私たちの生活と環境 3. 低炭素社会をめざす 4. 持続可能な社会のために 5. 行動し、変化をおこそう！	4				
			③持続可能な社会をめざして					4	
			④地域社会の一員として、支え合う大切さを知る。		4				
	3	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動*				8	・家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を解決する。		

学期	月	章・単元	項目	時間	学習のねらい・目標			
1 年生 1 学期	4	第 1 章 青年期と家族	①人生って何だろう？	1. 人の一生はどうなっている？ 2. 一生のなかの青年期 3. 青年期の自立と共生 4. 職業の選択	5	・生涯発達の見点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解する。 ・青年期の自立について考え、男女の社会的役割について理解する。また、自分の問題として意識する。 ・将来を見「何か、様々な観点から考えて自分なりの価値観を築く。		
			②家族って何だろう？	1. 家族の役割 2. 家庭の機能 3. 社会のなかの家族 4. 男女とともに家庭を築く 5. 家族をとりまく問題 6. 法律のなかの家族				
	5	第 2 章 保育	①子どもの成長を見つめる	1. 子どもの成長 2. 発育と発達 3. コミュニケーションの発達	4	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義をとらえ、子どもにとってよい環境について考え、自分なりの意見をもつ。 ・親の役割や子どもを育てることの意義を学ぶ。 ・生命の尊さを認識し、愛着の形成や社会的規範を身につけさせる上で、保育における親の役割を理解する。 ・子育てを支える社会のしくみについて知り、これから子どもを育てる世代になることを実感する。		
			②子どもの世話をしてみよう	1. 親の役割 2. 生活習慣とは 3. 子どもの健康を守る 4. 子どもの安全を守る 5. 子どもと遊び			3	
			③子どもを取り巻く環境	1. 子育ての現状と課題点 2. 子育てを支えるしくみ				3
			④子どもの権利と福祉	1. 子どもの権利を守る			3	
	6	第 3 章 高齢期	①超高齢社会を知る	1. 人口の高齢化はなぜおこるのか 2. 高齢期の心身の特徴 3. 高齢者の健康 4. 高齢期の生活	2	・高齢者の生活に関心をもち、未来の自分の生活としてとらえることができるようになる。 ・我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題について理解する。また、高齢期の生活を支える制度について知る。 ・高齢者の介護について具体的な方法を理解する。		
			②高齢者とふれ合ってみよう	1. 高齢者と交流してみよう 2. 介護について学ぼう			5	
			③高齢期の生活を支えるしくみは？	1. 超高齢社会の課題 2. 介護保険制度とは？ 3. そのほかの制度は？ 4. 地域福祉とは				3
	7	第 4 章 消費生活	①何をどうやって買う？	1. 私たちの消費生活 2. 生活情報の活用	3	・消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、自身の消費行動として具体的に考えられるようになる。 ・家計管理について具体的な事例を通して、シミュレーションすることができるようになる。 ・生活情報を活用するために必要な情報リテラシーを身につける。 ・税金の仕組みを知り、納税の大切さについて理解する。		
			②自立した消費者とは？	1. 契約で成り立つ消費生活 2. 消費者問題の現状と課題 3. 消費者信用のしくみ 4. 消費者の権利と責任			4	
			③暮らしを社会につなげる	1. 経済からみた暮らし 2. 家計とその特徴 3. 家計を計画的に管理しよう 4. 私たちの行動が社会を変える				5
④暮らしを社会につなげる				5				
8	第 5 章 食生活	①食生活を見つめよう	1. 食事の持つ機能 2. 現代の食生活の課題		4	・日常用いられる食品の栄養素的特質、調理上の性質について科学的視点から理解する。		
		②私たちが食べているもの	1. 栄養素とは 2. 栄養素の働き 3. 食品を知ろう	10				
		③安全・安心な食品を選ぼう	1. 食品の選択 2. 食品の保存 3. 食品の安全を守る				5	
		④献立と調理	1. 献立を立てよう 2. 何をどれだけ食べる？ 3. 調理をしてみよう 4. おいしく調理するために	5				
9	調理実習				10			
		第 5 章 食生活	③安全・安心な食品を選ぼう	1. 食品の選択 2. 食品の保存 3. 食品の安全を守る		5	・食生活の多様化や環境の変化を知り、食生活と環境の関わりについて科学的に考える能力を身につける。 ・行事食・郷土食・伝統的な加工食品などの食生活の文化とその背景について知る。 ・現代の食生活における食の安全に関する基礎的な知識を理解する。 ・世代ごとの必要な栄養素を考え、献立を立てることができる。 ・調理の基本的な技術を身につけ、健康・安全を考えた調理ができるようになる。 ・環境を考えた食生活を送ることができる。	
			④献立と調理	1. 献立を立てよう 2. 何をどれだけ食べる？ 3. 調理をしてみよう 4. おいしく調理するために				5
			調理実習					
⑤食と暮らしのかかわり	1. 食文化の継承 2. 食料自給率の低下と食育		3					
10	第 6 章 衣生活	①なぜ服を着るの？		1. 保健衛生上の機能 2. 社会生活上の機能	2	・自身の衣生活の分析を通して、衣服や日常の衣生活に関心をもち、身につけることができるようになる。 ・状況に合わせた衣服選択の大切さを理解し、社会生活に生かすことができる。 ・資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた被服計画をたてることのできる。 ・基本的な衣服製作の技術を身につける。		
		②衣服を入手しよう	1. 衣服の購入と選択 2. 衣服の材料 3. 衣服の構成	3				
		③衣服をつくってみよう！	1. 衣服製作の手順				12	
		④衣服を管理しよう	1. 衣服の手入れ 2. 衣服の保管 3. 衣服と環境	5				
11	第 7 章 住生活	①人と住まい	1. 住まいの役割 2. 空間はどう構成されるの？ 3. 安全に暮らす 4. 犯罪を予防する 5. 快適に暮らす 6. 住居の維持と管理 7. 気候風土と住まい		2	・住宅の機能、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解する。 ・家族の状況に合わせて住まいを変えていく必要性について理解する。 ・安全で快適な住生活を送るための知識を身につけ、環境にも配慮した住生活を送るための知識を身につける。 ・住居の平面図を読みとることができるようになる。 ・私たちの暮らしが地域とつながっていることを知り、まちづくりに参加する重要性を理解する。		
		②住まいの空間と構成		3				
		③住まいと安全	1. 安全に暮らす 2. 外部からの安全				2	
		④住まいと社会	1. 住まいの今 2. さまざまつながり	2				
⑤住まいと環境	1. 文化と住生活 2. 住居の維持と管理 3. 環境と住生活	3						
12	第 8 章 生活設計		①目標をもって生きよう！	1. 生活設計とは？ 2. 生活資源をいかそう 3. 人とかかわって生きる	4	・税金の仕組みを知り、納税の大切さについて理解する。地域社会の一員として、支え合う大切さを知る。生涯を見通した生活設計の重要性について理解する。自身の生活を見つめ直し、地球環境保全に貢献できるライフスタイルを確立するための基礎をつくる。 ・障がいを見通した生活設計の重要性について理解する。		
		②人とかかわって生きる	1. 共生社会とは 2. 私たちの生活と環境 3. 低炭素社会をめざす 4. 持続可能な社会のために 5. 行動し、変化をおこそう！	4				
		③持続可能な社会をめざして					4	
		④地域社会の一員として、支え合う大切さを知る。		4				
7,9	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動*				8	・家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を解決する。		

\*夏休みをはずみ、7月と9月に行うことを想定しています。

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<b>評価規準</b> (観点及びその趣旨)	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。
<b>第1章 青年期と家族</b>	●生涯発達の見点で各ライフステージごとの発達課題に関心をもち、学習活動に取り組もうとしている。 ●家族・家庭と社会との関わりに関心をもち、男女が協力して家庭を築くという視点から学習活動に取り組もうとしている。 ●青年期の課題や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉えようとしている。	●生涯発達の見点から、青年期をどのように過ごすかについて、具体的に考え、意見をまとめたり、発表したりしている。 ●具体的な事例や事象を通して、これからの家族・家庭のあり方について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●ワーク・ライフ・バランスの見点から、職業労働のあり方について考え、まとめたり、発表したりしている。	●新聞や書籍、インターネットなどを活用したり、身近な知人へのインタビューをしたりすることにより、事例研究や演習などに必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。 ●自分の人生をどのように送るか、関連資料などを参考に将来を想像しながらまとめることができる。	●生涯発達の見点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ●青年期の自立や男女の社会的役割について理解している。 ●現代の家族の特徴について、家族形態の変化や人々の意識変化などから理解している。 ●生活に関わる法律の基本的な趣旨、家庭生活を支える社会制度や福祉の基本的な理念を理解している。
<b>第2章 保育</b>	●子どもに対するイメージを膨らませ、実践的・体験的な学習を通して、学習に取り組もうとしている。 ●保育における親と社会の果たす役割について考えようとしている。 ●子どもの権利と福祉について考えようとしている。	●子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもにとってよい環境について考え、意見をまとめたり、発表したりすることができる。 ●親の役割や子どもを育てることの意義について考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ●少子化、育児不安、児童虐待、子どもの貧困など、現代の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え、新聞、書籍、インターネットを活用したり、地域の関連機関へ調査に向いたりして、資料を収集して調査することができる。	●保育所や幼稚園等での保育実習で、子どもとふれ合ったり、子どもの発達の様子について観察することができる。 ●親の役割や子どもにとって望ましい保育環境について、自分の考えを入れながらまとめることができる。 ●子どもの生活や遊びについて調査・観察したことをまとめ、発表することができる。	●子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解している。 ●子どもの生活の概要を理解している。 ●子どもは生活の中で人と関わることを通して成長することを理解している。 ●生命の尊さを認識するとともに、愛着の形成や社会的規範を身に付けさせる上で、保育における親の役割を理解している。 ●子どもを取り巻く環境整備と社会全体で子育てを支える必要性を理解している。 ●子どもの権利と福祉について理解している。
<b>第3章 高齢期</b>	●高齢者体験や介護実習、高齢者施設訪問等の体験学習を通して、高齢者の生活に関心をもち、未来の自分の生活としてとらえ、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ●高齢者に対する福祉の現状を理解し、高齢期の生活を支える仕組みについて考えようとしている。 ●祖父母や身近な高齢者とふれ合う意欲と姿勢がある。	●高齢者や高齢者を取り巻く社会の現状を知り、その課題と改善について新聞や書籍、インターネットなどを活用して資料を収集したり、調査したりすることができる。 ●高齢者施設訪問等で得た体験・経験を発表したり、意見を交換したりすることができる。	●高齢者施設訪問などを通して、高齢者と実際にふれ合う、話すなど、高齢者に関わることができる。 ●祖父母や身近な高齢者から生きがいや社会参加、健康問題などを聞き取り、まとめたことを発表することができる。 ●日常的な介護技術の基本と実践する際の心構えを身に付けている。	●高齢者の心身の特徴について理解している。 ●我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題について理解している。 ●高齢者の自立と尊厳について理解している。
<b>第4章 食生活</b>	●自身や家族の食生活について関心をもち、調理実習・実験などを通して、その課題の改善に意欲的に取り組むことができる。 ●食生活の多様化や食環境の変化を知り、食生活と環境について科学的に考えようとしている。 ●行事食・郷土食・伝統的な加工食品などの食生活の文化とその背景について考えようとしている。 ●食の安全・衛生について関心をもち、現代の食生活における課題について目を向けている。	●自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを活用し、自身や家族の献立を考え、作成している。 ●調理実習や実験、新聞や書籍、インターネットによる資料収集などを通して、食の安全や食文化について、考えをまとめたり、発表したりしている。 ●自給率の低下や外食・中食への依存など現在の食生活の問題について深く考えている。 ●調理の安全や衛生について具体的に考えている。	●食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。 ●資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。 ●配膳や食事マナーを考えて、食事を整え、楽しく食事をすることができる。 ●料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身に付け、効率よく調理することができる。	●各ライフステージごとの食生活の課題と改善策について理解している。 ●食と健康の関わりについて理解している。 ●日常用いられる食品の栄養素の特質、調理上の性質について科学的視点から理解している。 ●日常食の調理について、栄養バランスのよい献立作成、食材の選択、調理、盛り付け、配膳などについて総合的に理解している。 ●現代の食生活における食の安全に関する基礎的な知識を理解している。 ●地域の食文化に関する基礎的な知識を理解している。

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<b>第5章 衣生活</b>	●自身の衣生活の分析を通して、衣服に関心をもち、現代の衣生活に関心をもちようとしている。 ●被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。 ●被服製作実習に意欲的に取り組もうとしている。 ●衣生活の文化とその背景について考えようとしている。	●衣生活に関する学習を通して、自身の着装について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●被服の社会的機能について、新聞、書籍、インターネットなどを通して資料を収集したり、調査したりしている。 ●被服製作において、素材、色、縫製などを工夫することにより着心地のよい被服を作成している。	●被服の機能について理解している。 ●被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解している。 ●平面構成と立体構成の特徴を理解している。 ●資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた被服計画の必要性について理解している。 ●衣服が健康に与える影響について理解している。	●自身の衣生活の分析を通して、現代の衣生活に関心をもちようとしている。 ●被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。 ●被服製作実習に意欲的に取り組もうとしている。 ●衣生活の文化とその背景について考えようとしている。
<b>第6章 住生活</b>	●「安心」をキーワードに住居について考えようとしている。 ●住居の手入れについて考えようとしている。 ●住生活の文化について関心をもち、学ぼうとしている。 ●地域施設との関係や、集まって住むルールなど、地域のコミュニティと共生できる住居のあり方などについて理解しようとしている。	●各ライフステージに応じた住居について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●気候や風土に応じた住居の特徴や変遷について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●自然環境や社会環境と調和した住居のあり方について、新聞、書籍、インターネットなどを通して資料を収集したり、考えをまとめて発表したりしている。 ●防犯、防火、耐震などの安全性が高く、日照、採光、換気、遮音などに配慮して健康的に住むことができる住居について考えている。	●住生活の設計に必要な情報を収集・整理することができる。 ●住居の平面図を読みとることができる。 ●住居の安全性について知り、家庭生活において具体的な行動に移す事ができる。	●各ライフステージの変化と住宅に求める事柄の変化について理解している。 ●住宅の機能、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。 ●安全で快適な住生活を送るための知識を身に付け、環境にも配慮した住生活について理解している。 ●文化的側面から、様々な住宅様式について理解している。 ●地域社会とつながり、暮らすことの重要性について理解している。
<b>第7章 消費生活・環境</b>	●生涯を見通した家計管理のあり方について考えようとしている。 ●消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、自身の消費行動として具体的に考えようとしている。 ●消費者の権利と責任に関心をもち、現代の消費生活と資源・環境についても考えようとしている。 ●家計の構造、家計における収支バランスや計画性にとどまらず、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた貯蓄や金融商品の活用などの資金計画について関心をもち、学ぼうとしている。 ●自身の生活を見つめ直し、地球環境保全に貢献できるライフスタイルについて考えようとしている。	●家計管理について具体的な事例を通して、シミュレーションすることができる。 ●ひとつの情報を鵜呑みにするのではなく、情報を正しく活用する情報リテラシーについて考えることができる。 ●消費者問題の被害防止や救済について、具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ●消費者の責任について考え、今後の課題と解決方法について発表したり、意見を交換したりすることができる。 ●持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、新聞、書籍、インターネット、自身や周囲の生活から具体例を収集し、まとめたり、発表したりしている。	●家計の管理に関する具体的な事例を収集し、整理することができる。 ●消費行動における意思決定の過程とその要因について理解している。 ●消費者問題の原因と被害に遭わないための対策について理解している。 ●消費者の責任について理解し、お金による投票行為として消費行動を捉えられる。 ●国際的視点にたった地球環境への影響、理念だけではなく実質的行動に移すことの重要性を理解している。	●生涯を見通した家計管理のあり方について考えようとしている。 ●消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、自身の消費行動として具体的に考えようとしている。 ●消費者の権利と責任に関心をもち、現代の消費生活と資源・環境についても考えようとしている。 ●家計の構造、家計における収支バランスや計画性にとどまらず、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた貯蓄や金融商品の活用などの資金計画について関心をもち、学ぼうとしている。 ●自身の生活を見つめ直し、地球環境保全に貢献できるライフスタイルについて考えようとしている。
<b>第8章 生活設計</b>	●これまでの学習のまとめとして自身の人生を見直し、生活資源を活かした生活設計を考えようとしている。 ●地域社会の一員として、個人や集団がどのようにつながり、支え合っていくか、考えようとしている。	●生活資源の一つとして、自身のライフスキルがどの程度高まったかを考え、まとめたり、発表したりしている。 ●自分らしいライフスタイルの実現を目指して、生活設計を立てたり、発表したりしている。 ●共生社会の重要性を考え、その実現のための課題について具体的に考え、資料を収集してまとめることができる。	●自身の考える生活設計実現のために必要な情報を収集・整理することができる。 ●地域のコミュニティ活動、ボランティア活動、NPOの活動などについて情報を集めたり、参加したりすることができる。	●これまでの学習のまとめとして自身の人生を見直し、生活資源を活かした生活設計を考えようとしている。 ●地域社会の一員として、個人や集団がどのようにつながり、支え合っていくか、考えようとしている。
<b>ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b>	●家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、主体的に生活の課題を見だし、改善しようとしている。	●生活上の課題の解決を目指して、科学的に探求し、表現している。 ●活動を通して得た結果について、発表したり、意見交換したりしている。	●課題解決のために、具体的な計画を立て、実行し、さらに改善することができる。 ●調査・研究に必要な資料を収集・整理できる。	●自身や地域の生活を見つめ、生活上の課題を発見し、改善のための実践活動をする意義を理解している。 ●設定したテーマを実践するために必要な知識を持っている。

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準 (観点及びその趣旨)	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。
第1章 青年期と家族	●生涯発達の視点で各ライフステージごとの発達課題に関心をもち、学習活動に取り組もうとしている。 ●家族・家庭と社会との関わりに関心をもち、男女が協力して家庭を築くという視点から学習活動に取り組もうとしている。 ●青年期の課題や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉えようとしている。	●生涯発達の視点から、青年期をどのように過ごすかについて、具体的に考え、意見をまとめたり、発表したりしている。 ●具体的な事例や事象を通して、これからの家族・家庭のあり方について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●ワーク・ライフ・バランスの視点から、職業労働のあり方について考え、まとめたり、発表したりしている。	●新聞や書籍、インターネットなどを活用したり、身近な知人へのインタビューをしたりすることにより、事例研究や演習などに必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。 ●自分の人生をどのように送るか、関連資料などを参考に将来を想像しながらまとめることができる。	●生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ●青年期の自立や男女の社会的役割について理解している。 ●現代の家族の特徴について、家族形態の変化や人々の意識変化などから理解している。 ●生活に関わる法律の基本的な趣旨、家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的な理念を理解している。
第2章 保育	●子どもに対するイメージを膨らませ、実践的・体験的な学習を通して、学習に取り組もうとしている。 ●保育における親と社会の果たす役割について考えようとしている。 ●子どもの権利と福祉について考えようとしている。	●子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもにとってよい環境について考え、意見をまとめたり、発表したりすることができる。 ●親の役割や子どもを生み育てることの意義について考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ●少子化、育児不安、児童虐待、子どもの貧困など、現代の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え、新聞、書籍、インターネットを活用したり、地域の関連機関へ調査に向かい、資料を収集して調査することができる。 ●保育所・幼稚園等での保育実習で得た体験・経験を発表したり、意見を交換したりすることができる。	●保育所や幼稚園等での保育実習で、子どもとふれ合ったり、子どもの発達の様子について観察することができる。 ●親の役割や子どもにとって望ましい保育環境について、自分の考えを入れながらまとめることができる。 ●子どもの生活や遊びについて調査・観察したことをまとめ、発表することができる。	●子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解している。 ●子どもの生活の概要を理解している。 ●子どもは生活の中で人と関わることを通じて成長することを理解している。 ●生命の尊さを認識するとともに、愛着の形成や社会的規範を身に付けさせる上で、保育における親の役割を理解している。 ●子どもを取り巻く環境整備と社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ●子どもの権利と福祉について理解している。
第3章 高齢期	●高齢者体験や介護実習、高齢者施設訪問等の体験学習を通して、高齢者の生活に関心をもち、未来の自分の生活としてとらえ、意欲的に学習に取り組もうとしている。 ●高齢者に対する福祉の現状を理解し、高齢期の生活を支える仕組みについて考えようとしている。 ●祖父母や身近な高齢者とふれ合う意欲と姿勢がある。	●高齢者や高齢者を取り巻く社会の現状を知り、その課題と改善について新聞や書籍、インターネットなどを活用して資料を収集したり、調査したりすることができる。 ●高齢者施設訪問等で得た体験・経験を発表したり、意見を交換したりすることができる。	●高齢者施設訪問などを通して、高齢者と実際にふれ合う、話すなど、高齢者と関わることができる。 ●祖父母や身近な高齢者から生きがいや社会参加、健康問題などを聞き取り、まとめたことを発表することができる。 ●日常的な介護技術の基本と実践する際の心構えを身に付けている。	●高齢者の心身の特徴について理解している。 ●我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題について理解している。 ●高齢者の自立と尊厳について理解している。
第4章 消費生活	●生涯を見通した家計管理のあり方について考えようとしている。 ●消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、自身の消費行動として具体的に考えようとしている。 ●消費者の権利と責任に関心をもち、現代の消費生活と資源・環境についても考えようとしている。 ●家計の構造、家計における収支バランスや計画性とどまらず、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた貯蓄や金融商品の活用などの資金計画について関心をもちている。	●家計管理について具体的な事例を通して、シミュレーションすることができる。 ●消費行動の際の主体的な意思決定について考え、資料を収集してまとめたり、発表したりできる。 ●ひとつの情報を鵜呑みにするのではなく、情報を正しく活用する情報リテラシーについて考えることができる。 ●消費者問題の被害防止や救済について、具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ●消費者の責任について考え、今後の課題と解決方法について発表したり、意見を交換したりすることができる。 ●持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、新聞、書籍、インターネット、自身や周囲の生活から具体例を収集し、まとめたり、発表したりしている。	●家計の管理に関する具体的な事例を収集し、整理することができる。 ●生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 ●消費行動における意思決定の事例について、具体的な情報の収集や比較検討を行うことができる。 ●消費者の権利と責任を理解し、資源・環境を考えた消費行動ができる。 ●環境に配慮した消費行動に必要な情報を収集・整理することができる。 ●契約や消費者信用、多重債務などの問題について具体的に認識し、消費者として適切な判断ができる力をもっている。	●家計と経済社会の関わりを理解している。 ●生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 ●消費行動における意思決定の過程とその要因について理解している。 ●消費者問題の原因と被害に遭わないための対策について理解している。 ●消費者の責任について理解し、お金による投票行為として消費行動を捉えられる。

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第5章 食生活	●自身や家族の食生活について関心をもち、調理実習・実験などを通して、その課題の改善に意欲的に取り組むことができる。 ●食生活の多様化や食環境の変化を知り、食生活と環境について科学的に考えようとしている。 ●行事食・郷土食・伝統的な加工食品などの食生活の文化とその背景について考えようとしている。 ●食の安全・衛生について関心をもち、現代の食生活における課題について目を向けている。	●自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを活用し、自身や家族の献立を考え、作成している。 ●調理実習や実験、新聞や書籍、インターネットによる資料収集などを通して、食の安全や食文化について、考えをまとめたり、発表したりしている。 ●自給率の低下や外食・中食への依存など現在の食生活の問題について深く考えている。 ●調理の安全や衛生について具体的に考えている。	●食生活の自立に必要な基礎的な調理ができる。 ●資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。 ●配膳や食スマナーを考えて、食事を整え、楽しく食事をすることができる。 ●料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身に付け、効率よく調理することができる。	●各ライフステージごとの食生活の課題と改善策について理解している。 ●食と健康の関わりについて理解している。 ●日常用いられる食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的視点から理解している。 ●日常食の調理について、栄養バランスのよい献立作成、食材の選択、調理、盛り付け、配膳などについて総合的に理解している。 ●現代の食生活における食の安全に関する基礎的な知識を理解している。 ●地域の食文化に関する基礎的な知識を理解している。
第6章 衣生活	●自身の衣生活の分析を通して、衣服に関心をもち、現代の衣生活に関心をもちようとしている。 ●被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。 ●被服製作実習に意欲的に取り組もうとしている。 ●衣生活の文化とその背景について考えようとしている。	●衣生活に関する学習を通して、自身の着装について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●被服の社会的機能について、新聞、書籍、インターネットなどを通して資料を収集したり、調査したりしている。 ●被服製作において、素材、色、縫製などを工夫することにより着心地のよい被服を作成している。	●被服の入手、洗濯、保管など衣生活の管理ができる技術を習得している。 ●被服製作実習を通して、基本的な縫製技術を身に付けている。 ●社会的慣習に適切ながらも自己実現する着装の工夫をし、着用の目的に応じて健康的な衣服選択と着装ができる。 ●資源の有効利用まで考えた衣服の購入、再利用、廃棄まですることができる。	●被服の機能について理解している。 ●被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解している。 ●平面構成と立体構成の特徴を理解している。 ●資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた被服計画の必要性について理解している。 ●衣服が健康に与える影響について理解している。
第7章 住生活	●「安心」をキーワードに住居について考えようとしている。 ●住居の手入れについて考えようとしている。 ●住生活の文化について関心をもち、学ぼうとしている。 ●地域施設との関係や、集まって住むルールなど、地域のコミュニティと共生できる住居のあり方などについて理解しようとしている。	●各ライフステージに応じた住居について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●気候や風土に応じた住居の特徴や変遷について考え、まとめたり、発表したりしている。 ●自然環境や社会環境と調和した住居のあり方について、新聞、書籍、インターネットなどを通して資料を収集したり、考えをまとめて発表したりしている。 ●防犯、防火、耐震などの安全性が高く、日照、採光、換気、遮音などに配慮して健康的に住むことができる住居について考えている。	●住生活の設計に必要な情報を収集・整理することができる。 ●住居の平面図を読みとることができる。 ●住居の安全性について知り、家庭生活において具体的な行動に移す事ができる。	●各ライフステージの変化と住宅に求める事柄の変化について理解している。 ●住宅の機能、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。 ●安全で快適な住生活を送るための知識を身に付け、環境にも配慮した住生活について理解している。 ●文化的側面から、様々な住宅様式について理解している。 ●地域社会とつながり、暮らすことの重要性について理解している。
第8章 生活設計	●これまでの学習のまとめとして自身の人生を見直し、生活資源を活かした生活設計を考えようとしている。 ●地域社会の一員として、個人や集団がどのようにつながり、支え合っていくか、考えようとしている。 ●生活を見つめ直し、地球環境保全に貢献できるライフスタイルについて考えようとしている。	●生活資源の一つとして、自身のライフスキルがどの程度高まったかを考え、まとめたり、発表したりしている。 ●自分らしいライフスタイルの実現を目指して、生活設計を立てたり、発表したりしている。 ●共生社会の重要性を考え、その実現のための課題について具体的に考えたり、資料を収集してまとめたりすることができる。	●自身の考える生活設計実現のために必要な情報を収集・整理することができる。 ●地域のコミュニティ活動、ボランティア活動、NPOの活動などについて情報を集めたり、参加したりすることができる。	●一生を通して、社会の動きを見つめ、不測の事態にも柔軟に対応する必要性や広い視野をもって生活を創造していくことの重要性を認識している。 ●共生社会の重要性を知り、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインなどの理念を理解している。 ●国際的視点にたった地球環境への影響、理念だけではなく実質的行動に移すことの重要性を理解している。
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	●家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、主体的に生活の課題を見だし、改善しようとしている。	●課題解決のために、具体的な計画を立て、実行し、さらに改善することができる。 ●調査・研究に必要な資料を収集・整理できる。	●自身や地域の生活を見つめ、生活上の課題を発見し、改善のための実践活動をする意義を理解している。 ●設定したテーマを実践するために必要な知識を持っている。	

編修趣意書や採択理由書をダウンロードして使用したい！



シラバスや評価規準例のデータが欲しい！

## 教育図書にお任せください！

弊社ホームページから、「編修趣意書」「シラバス」「評価規準例」「採択理由書」のダウンロードができます！  
以下の手順でダウンロードをお願いします！！

### 手順①

お使いのインターネットブラウザを立ち上げていただき、「教育図書」で検索し、弊社のホームページを開いてください！もし見つからない場合は、以下のアドレスを入力してください。

<https://www.kyoiku-tosho.co.jp>

教育図書

検索

### 手順②

弊社ホームページの上部にある「高校家庭科」のバナー（下画像参照）をクリックしてください！

Click!

高校家庭科



クリックしていただくと、教科書類の表紙が並ぶページにリンクします。その中から、該当の教科書（右画像参照）を選択してください。教科書紹介のページに移ります。



家基312

新 家庭基礎

今を学び 未来を描き 暮らしをつくる

### 手順③

教科書紹介ページの中段にある、「教科書サポート資料」の中から編修趣意書、シラバス、採択の手引き、パンフレットなどがダウンロードできます。ぜひご利用ください！

教科書サポート資料

- 編修趣意書
- シラバス
- 採択の手引き
- ワークノート
- パンフレット